

## けいろう 「敬老の日」 のはじまり



「敬老の日」のはじまりをしらべてみよう。



今から75年ほど前、その当時、八千代町になる前の野間谷村の村長だった門脇政夫さんが、おとしよりの方をうやまい、感謝する日をつくろうと考えました。

その考えは、「としよりの日」となって各地にひろがりました。今では誰もが知っている国民の祝日となった「敬老の日」です。

このように多可町は“おとしよりのみなさん”に感謝する新しい文化を広めるきっかけをつくったまちなのです。

八千代プラザの前には、「敬老の日」をつくったまちであることをしるした記念の大きな石碑がたっています。

「敬老の日」には、多可町はもちろんのこと、日本中のまちで“敬老会”が開かれています。

### 故 門脇政夫さんの話

私の親は、私を大事に育ててくれました。その親をないがしろにするなんてとんでもない。だれもが、いつかは老いる。おとしよりを大切にしてもらいたい。そうすればやがてその人自身も大切にもらえるのだという信念があったのです。だから、当時のおとしよりをそまつに扱う考えががまんできませんでした。村長として、老人を大切にすることをしたいと考えました。



かどわきまさ お  
門脇政夫 明治44 (1911) 年～平成22 (2010) 年

加西市生まれ。昭和22年より野間谷村村長、八千代村村長をつとめ、敬老の日制定に大きくこうけんする。その後、県会議員として社会につくし、「人にやさしい県会さん」として親しまれる。

多可町では、「敬老の日」を祝って、町が開く「敬老会」と各集落で開く「敬老会」の二つの方法で行っています。

町では、77歳以上の方を対象にベルディーホールで、歌や踊り、手作りの料理などで感謝のつどいが開かれています。

各集落では75歳以上の方を対象に、公民館などで婦人会の方を中心に、手作りの料理や出しものなどで感謝のつどいを行っています。



みなさんが住んでいる地域の敬老会を調べてみよう。

### 「敬老の日」が定められるまで——

昭和22年 野間谷村で初めて「敬老会」が開かれる。その後、敬老の考えが各地にひろがる。

昭和25年 兵庫県の祝日として9月15日が「としよりの日」として定められる。

昭和41年 国民の祝日として「敬老の日」が定められる。



今の敬老会の様子（町の敬老式典から）



昔の敬老会の様子（昭和29年ごろの敬老会）

おばあちゃんへ

おばあちゃん、いつもやさしくしてくれてありがとう。いつも私の話を笑顔で聞いてくれてありがとう。両親がいそがしい時に、大好物のカレーを作ってくれてありがとう。おばあちゃんは、料理も洗濯も何でもできるので、すごいです。朝から晩まで織物の機械を動かし、一生けんめいに仕事をしている姿は、かっこよくて尊敬しています。

おばあちゃんの家に行くとき必ず一緒に、おじいちゃんのお墓参りに行きます。私は、おじいちゃんに、学校での生活や願い事を心の中で話しています。

「おじいちゃん。おばあちゃんは元気にしているから安心してね。織物工場は、おばあちゃんが、おじいちゃんのみまでがんばって守っているよ。おじいちゃん、これからもおばあちゃんや私たちを天国で見守っていてね」

おばあちゃん、いつまでも元気で長生きしてね。足が痛いのが少し心配だけど、これからは私がおばあちゃんを助けるからね。おばあちゃんのようにみんなから尊敬される大人になりたいです。

おばあちゃん。これからもずっと一緒にいようね。おばあちゃん、大好きです。

（敬老の日制定50周年記念式典「おばあちゃんへの手紙」より抜粋）

